

報告

第48回全国衛生化学技術協議会年会在長野市で開催されました

平成23年11月10日から2日間、長野市のJA長野県ビルにおいて第48回 全国衛生化学技術協議会年会在開催されました。全国衛生化学技術協議会は、衛生行政に関連した試験研究機関の衛生化学に関する技術の向上と相互の連絡、協調を図ることを目的として84の国公立の機関で構成されています。県内での年会的開催は初めてとなりますが、全国から約300名の研究者、技術者の方が参加し、日頃の研究成果等について発表が行われました。

初日は、「東日本大震災に伴う対応について」をテーマにシンポジウムが開かれ、国立医薬品食品衛生研究所、国立保健医療科学院、そして埼玉県衛生研究所から講演がなされました。続いて、長野県立歴史館の山崎会理氏より、長野県出身の学者・政治家であった佐久間象山について、「幕末の先覚者☆世界を見つめた佐久間象山」と題した特別講演がありました。2日目の研究発表では、薬事部門から17題の口頭発表、食品部門から72題、環境・家庭用品部門から40題の示説発表が行われ、研究発表後に行われた自由集会では、分野毎に分かれ活発な意見交換がなされました。

(福田敏之 kanken-shokuhin@pref.nagano.lg.jp)



年会的様子

海外からの技術研修員

技術研修員 赤羽カローネ吉美

私はブラジルのサンパウロから参りました、日系三世の赤羽カローネ吉美と申します。大学では環境エンジニアを勉強し、修士で環境技術を勉強しています。ブラジルで研修もしたけれど、私は環境コンサルタントの仕事をやります。今回、環境保全研究所で研修するために日本に来ました。6月1日から11月25日まで長野市で住んでいます。

日本とブラジルではたくさんの違いがあります。まずは、言葉。子供のころに日本語は勉強しましたが、自分の言いたいことを表現するのはとても大変でした。今でも難しいですが、来た時よりは上達したはずです！ブラジルでは、私たちは挨拶をしません。ただ名前を呼び合うだけです。日本人はお互いを名前で呼び合いますが、ブラジルでは通常、たとえ職場でも名前かニックネームを使います。そして日本では誰もがごみの分別(ビン、缶、ペットボトル、紙、プラスチック)をきちんとしています。サンパウロでは生ゴミと資源ゴミだけをきちんと分別します。



採水に同行した赤羽さん

環境保全研究所では大気環境部、水・土壌環境部、循環型社会部で研修をし、たくさんの技術を学びました。たとえば、放射線の測定や金属の分析のやりかた(大気、水、土壌)です。いつも、ブラジルでサンプリングをやるから、僚友にこの知識を教えられると思います。12月から電子機器リサイクル事業のプロジェクトに関係した仕事をするので、研究所で学んだ知識がとても大切だと思います。

仕事でも長野県のいろいろなところを訪れる機会がありましたが、この県にはたくさんの綺麗な場所があることがわかり、感動しました。貴重な体験をさせていただいて本当に感謝しています！

編集後記

- 39号をお届けします。
- 本誌は当研究所の活動や、長野県の実環境保全及び保健衛生に関する情報をわかりやすく提供することを目的に発行しています。お気づきのことがありましたら、お気軽にご連絡ください。

(編集担当：企画総務部 電話：026-227-0354)

次号の予告

次号は2月に発行予定です。「特集」、「トピックス」等を掲載予定です。